

まいまい通信

臨時号

(相模原市議会議員 森しげゆき 活動レポート)

平成29年11月発行

昨年度相模原市一般会計決算を認定

後援会事務局
相模原市中央区下九沢1120
発行責任者 岩崎 貴志
Tel. 042-770-5241

去る8月25日～9月29日に相模原市議会9月定例会議が開催され、平成29年度の相模原市一般会計決算が認定されました。相模原市の昨年度決算は、かつてない激しいものでしたが、子育て支援、高齢者福祉政策、障がい者福祉政策等予定していた事業がほぼ実行され、市民福祉の向上が図られたものと思います。しかしながら、財政の硬直化が進み、まちづくりにおける投資的経費は年々圧縮されています。引き続き効率的な事務と、最小限の投資で最大限の効果を発揮できるような政策を強く求めました。



6月定例会議で一般質問に立つ森しげゆき議員

【障がい者の支援を強く求める】
相模原市議会本年6月定例会議において、森しげゆき議員は一般質問に立ち、障がい者の就業支援について（松が丘園だけでなく横浜や川崎市のように社会福祉法人などが行う複数の障がい者の就業援助事業を展開する方法）求めるとともに、障がい者雇用率向上に向けた施策については特例子会社設立に向けた強化策

【真の共生社会の実現に向けて手腕に期待！】
本年5月19日に開催された、相模原市議会5月臨時会議において、森しげゆき議員は、相模原市議会・民生常任委員会委員長に就任しました。民生常任委員会は、「高齢者福祉」「障がい者福祉」「健康・医療」「子育て支援」「生活保護行政」など市民生活に直結する行政施策を審議する重要な委員会です。森議員が議員就任当初から掲げている『真の共生社会の実現』に向けて、その手腕が期待されます。

森しげゆき議員

民生常任委員会委員長に就任！

等強く求めました。さらに、障がい者が働く市内の福祉事業所、作業所、工房等の支援について、受注可能な仕事等を広く市民に知っていただく取り組みや受注につながる支援を求めました。また、市役所本庁舎1階に障がい者が働く喫茶・小物販売のショップを設置することも求めました。

【やまゆり園追悼式に出席】

昨年7月26日未明に発生した、障がい者支援施設「県立津久井やまゆり園」における殺傷事件では、19名もの尊い命が奪われ、多くの負傷者が出てしまいました。本年7月24日に相模原女子大グリーンホールにおいて追悼式が行われ、森しげゆき議員は民生委員会委員長として、市議会を代表して献花を行い、2度とこのような事件を起こしてはならないと、あらためて固く誓い、引き続き障がい者への理解が深まるよう、継続的な取り組みを約束しました。



追悼式で献花をする森しげゆき議員

6月定例会議

一般質問報告（その他）

【障がい者スポーツに関する支援について】

毎年藤沢市で開かれていいる県の知的障がい者スポーツ大会「神奈川県ゆうあいピック大会」だが、今年は藤沢のサッカー競技会場が改修の為使用できなかつたため、代わりに森議員が提案して4月に完成したばかりの本市横山公園人工芝グラウンドで行われた。障がい者スポーツの大きな大会が身近で開催されることは、障がい者への理解を深め、ノーマライゼーションの促進を図ることにつながるから、高く評価する。次年度の開催に向けた市の支援について求め、理解をいただいた。

【食のバリアフリーについて】

「食」に壁があつてはならない。食物アレルギーや、食文化の違いで、食に不自由を感じている方を理解し、できるだけ壁を取り払ってあげることが、共生社会のひとつである。

◎学校給食について

学校給食について、学校給食センターおよび自校方式もアレルギー除去食の対応をしていることは評価する。しかし、自校方式の給食の場合、アレルギー除去食について学校判断になつていることがある。そこで、各学校の対応を教育委員会が把握しているかを質問したところ、把握できていないとのことなので、早急に調査を求め、理解していただいた。

また、食文化の違い等で給食を食べられない子どもへの対応も確認した。例えば国際結婚を

して生まれ、日本の小学校に通学する子どもの中には、ベジタリアン、ビーガン、ハラール等、食文化の違いから普通の給食を食べられない子どもたちがいる。現在の学校給食における対応について伺つたところ、特に対応はないとのことなので、減免措置等考慮するよう求め、早急に調査することとなった。

全ての子どもたちが、美味しく楽しい給食の時間を過ごすために、あらゆる課題を抽出し、解決に向けた方策を今後とも計画的に進めることが重要である。子どもたちが食を考えることを含めて、子どもたちの意見を積極的に取り入れるべきと求め、引き続き取り組むこととなった。

◎インバウンド戦略による

食のバリアフリー

外国人観光客を呼び込み、本市に滞在してもらうには「食」が重要である。ベジタリアンやハラールなど、食文化が異なることで一般的な日本食を食べられない外国人観光客のために、民間事業者と共に戦略的な「食事ができる環境」づくりができないのかについて求めた。



6月定例会議で一般質問に立つ森議員
障がい者福祉政策を柱に、多くの項目
について市長の見解を質しています

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、より多くの外国人観光客を受け入れるために、本市内で外国人が安心して食事ができるマップ等を作成し、他都市との差別化を図るなど、戦略的な取り組みが必要であると訴え、関係機関と調整することとした。

◎日常生活での食のバリアフリー

日常生活において食物アレルギーによって不便を感じている方や、外国人等、食文化の違いで、食べられる食材が見つからない方もいると伺っている。市内のスーパーや商店に対して、食品表示法で義務付けられている特定原材料表示、特に加工品に対する表示の徹底を図ることや、食文化が違う外国人でも安心して食べられる食材が購入できるように取り組みを、積極的に促す必要があると求め、関係者と連携を図り、努力することとなった。

【地域活性化イベント】

◎さがみはらスイーツフェスティバル、さがみはらスイーツフェスティバル

の今後の発展について

潤水都市さがみはらフェスタの目玉イベントとなつている「さがみはらあ麺グランプリ」は、森しげゆき議員が提案したイベントだが、これまで7回開催されて定着が図られた。

大会規模の拡大やさがみはら地ラーメンの開発に関して見解を質した。またさがみはらスイーツフェスティバルの規模拡大について伺うと共に本市を代表する新たな銘菓やお土産品の開発を多くの市民が望んでいることを伝えた。市民の声に応える方策について市長に伺い、イベントの発展に向けて検討するとの回答を得た。

JR相模線・番田駅 駅舎建て替え 工事進む！

【永年に渡り要望を続ける】

この度、永年の懸案であったJR番田駅の駅舎建て替えが決まり、工事がスタートしました（JRの予算）。森しげゆき相模原市議会議員は、初当選した平成19年、最初の6月議会で相模線の利便性向上のため、JR番田駅の駅舎改修、トイレの改修、エレベーターの設置、駐輪場や駅前広場の整備を求めると同時に、相模線の終電時間の延長を求めてきました。3年後の平成22年にトイレの改修とエレベーターの設置が実施されましたが、残る課題の要望を続けてきました。今回、駅舎は建て替えられますが、残念ながら入り口は一か所のみです。尚、駐輪場も有料駐輪場が整備されます。

【橋上駅舎にするには】

さらなる乗降客増加が必須

駅の東西に入り口を設置し、駅舎を地上にくるいわゆる「橋上駅舎」にするためには、一日の乗降客が1万人以上という基準があります。現在番田駅の乗降客は8千人弱とのことです。さらなる相模線の利用促進を図らなければなりません（その場合、市の予算での工事となります）。今後は、引き続き踏切の安全対策、駅前広場の整備を求めてまいります。また、相模線の利便性向上のため、上溝駅に行き違い路線の設置や、相模線の複線化を求めてまいります。

【国政との連携の成果】

また、もう一つの改善として、昨年、終電時間の繰り下げ（27分）が実現されました。森しげゆき議員は市議会で発言を繰り返すと同時に、国会では、もとむら賢太郎衆議院議員が、国土交通委員会で取り上げていただき、JRのダイヤ改正に結び付いたものと思います。今後とも国政とのパイプを深めてまいります。



建て替えが始まったJR相模線・番田駅。年々利用客が増え、橋上駅舎にする必要。さらなる改善が必要。

相模原市議会

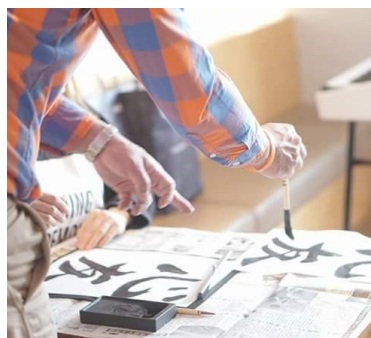
9月定例会議終わる

相模原市議会の9月定例会議は、市の一年間の決算を審議する重要な会議です。

相模原市議会では決算特別委員会を組織し、各常任委員会が所管する決算について決算分科会を設置して、慎重に決算を審議しています。

とりわけ、森議員が委員長を務める民生委員会決算特別分科会においては、丸二日間に渡り市民生活に直結する高齢者福祉、障がい者、子育て支援、医療・健康、生活保護行政など、多岐に渡って昨年一年間に市が行った施策の総括、予算執行状況のチェックを行いました。民生委員会は、特に市全体予算の45パーセントを占める施策があることから、各議員から多くの意見要望が出されました。昨年度の実績における改善すべき点は、今後の予算編成に活かされるよう努めます。

また、今回の定例会議の中で議員提案議案として「北朝鮮による核実験及びミサイル発射に強く抗議する決議」が採択されるとともに、「核兵器廃絶に向けた取組みと核兵器禁止条約に参加できるような橋渡し」としての役割を担うことを求める意見書、「大規模災害時の法制度に関する抜本的な見直しを求める意見書」が全会一致で採択され、国に意見書が提出されました。今後とも自治体だけでは解決しない課題については、地方議会が一丸となって国に対して意見書を提出するなど、解決に向けた努力をしてまいります。



「大人」の書道部では10人の生徒さんに、毎月書道を指導しています。心を落ち着ける時間も大切にしています。

2020東京オリンピック・パラリンピックにおいて

相模原市がブラジルチームの事前キャンプ地に決定！

オリンピック事前

キャンプの意義

森しげゆき議員は、2020東京オリンピック・パラリンピックの東京開催決定の直後から市議会にて『相模原市は、事前キャンプの誘致に積極的に取り組むべき』と何度も提言してきました。これを受け相模原市では、数か国の訪問調査を受け入れるなど積極的に対応していただきました。このたびブラジルチームの事前キャンプ誘致が実現したことは高く評価しています。

【市民・子どもたちに

夢と感動を】

先般の市議会6月定例会議において、ブラジルチームが相模原で事前キャンプを行うという事実を確認しました。さらに市民との交流方針について質問したところ「ブラジルチームとの覚書では、大会に支障がない限り市民との交流を積極的に行う」ということも確認できました。市は、今後一年をかけて交流事業のプログラムを策定する予定です。練習の見学や市民との交流の中で、子どもたちを始めとする市民の皆さんが、世界のトップアスリートを肌で感じ、夢と感動を得られることに大きな期待をしています。

【森しげゆきプロフィール】

- 1966年 9月 秋田県男鹿市生まれ 51歳
- 1985年 4月 NEC入社
- 2002年 12月 連合神奈川・相模原地域連合事務局長
- 【相模原・津久井地域合併協議会委員、相模原市廃棄物減量等推進審議会委員、相模原市公共交通推進協議会委員、新宿小学校PTA会長、相模原市青少年指導員 等を歴任】
- 2007年 4月 相模原市議会議員初当選
- 2011年 4月 相模原市議会議員2期目当選
- 2015年 4月 相模原市議会議員3期目当選

趣味 ラグビー、サッカー(身体を動かすこと)
特技 書道(現在も指導中)
住まい 相模原市中央区上溝在住

ギオンス照明工事進む

相模原ギオンスタジアムは現在、照明設置工事が行われています。夏季の猛暑において相模原ホームタウンチームの日中の試合が困難なことや、夜間の市民利用拡大に繋がることから、**森しげゆき議員**がたびたび市議会にて要求してきたものです。



趣味のラグビーは、今も続けています

【市議会活動】

環境経済常任委員会委員長、文教常任委員会委員長、水源地域対策特別委員会委員長、農業委員等を歴任

【市議会活動・現職】

民生常任委員会委員長、交通問題特別委員会
相模原スポーツを応援する議員連盟事務局長
小田急多摩線延伸促進議員連盟監事
都市計画審議会委員

【その他・現職】

NPO法人相模原市ラグビーフットボール協会顧問
ライオンズ国際協会青少年クエスト薬物乱用防止委員
下九沢地域振興会、石橋地区伝承芸能保存会
相模原秋田県人会、認知症キャラバンメイト
薬物乱用防止教育認定講師、なまはげ伝道師